ビッグ・アイ　コミュニケーション情報紙

i-co あいこ

BiG-i Communication Paper

The title of our information paper “i-co” is pronounced the same as the Japanese word “aiko,” which means here an equal relationship where no one wins or loses. The purpose of this free paper is to offer useful information for everyone, with and without disabilities, with the motto of “Sharing and Caring.”

2016 April vol.22

「あいこ」は、勝ちも負けもない対等な関係を表す言葉です。「あいこ」は、この分かち合いの精神で、障がいのある人ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信します。

i-feature　2015年11月23日に開催されたビッグ・アイ アートフェスティバルのダンスステージ「HALO ～踊りだす色～」から1カ月後の昨年12月、公演に出演した筑波技術大学のダンスサークル「Soul Impression（ソウルインプレッション）」のメンバーを訪ねて筑波技術大学に伺いました。

文：鈴木京子（国際障害者交流センター 事業プロデューサー）

筑波技術大学

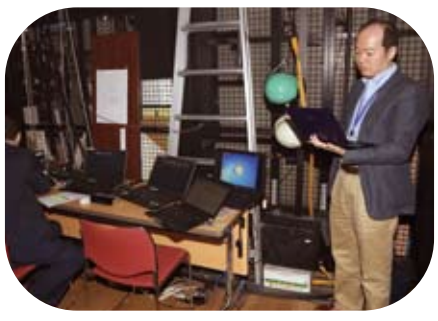
筑波技術大学とビッグ・アイの関係は、2013年度にスタートした「ホール公演時における遠隔情報保障システム」の導入で筑波技術大学に技術協力をお願いしたことからでした。

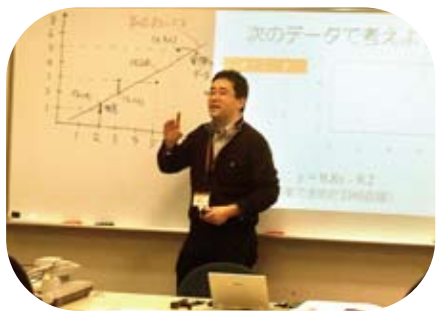
遠隔情報保障システムとは、公演時の音声を文字情報にする入力者のいる場所にネット環境をつかってライブ配信し、受信した入力者が文字化して公演現場のホールのスクリーンに文字情報を返すシステムです。このシステムは、学内での講義にも使用されています。

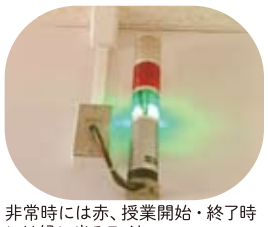
筑波技術大学は、日本で唯一の視聴覚障害者に対する情報アクセシビリティーが完備された大学です。視覚障害者の学ぶ保健科学部（春日キャンパス）と聴覚障害者が学ぶ産業技術学部（天久保キャンパス）の二つのキャンパスがあり、今回訪れたのは聴覚障害者の学生たちが学ぶ産業技術学部のある天久保キャンパスです。

キャンパス内には、「きこえない人」「きこえづらい人」のためのいろんな工夫がありました。学舎を見渡せる中庭に立つと、どの棟の窓も全身が見える大きな窓で、これは建物の中と外で会話をするときに手話の手元が見えるようにするためです。

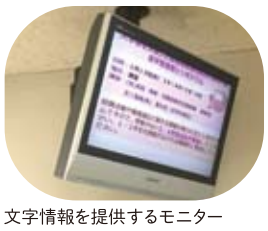
エレベーターにも全身が見える窓があり、緊急時には、手話を使って会話ができるように考えられています。また、廊下には講義の開始と終了を知らせるチャイムや非常時のサイレン代わりのライトが設置されているほか、文字情報によって学内の連絡などの情報が提供できるモニターが色んな場所に設置されています。


遠隔情報保障システムによる字幕制作作業


講義風景


非常時には赤、授業開始・終了時には緑に光るライト

窓の大きな学舎


文字情報を提供するモニター

中の人が外の人と手話で会話できる窓付きエレベーター

全国各地から入学しているのでほとんどの学生は寮で生活している

Soul Impressionとの出会い

遠隔情報保障のシステムを見学するために何度か筑波技術大学を訪問していたある日、技術協力いただいていた河野純大（かわの すみひろ）准教授から、ダンスサークルの練習日だからと見学させていただいたのが、「Soul Impression（ソウルインプレッション）」との出会いでした。

サークル打合せ中

稽古場にはいくつもの黒板

音のチェック中　ビートを感じる

文字やイラストを使って振付

みんな楽しそう　いい顔してます

河野先生に案内されたのは構内の一角にある体育館と併設された武道場でした。武道場の扉をあけると、身体にズンズンと響く大きな音の中で十数人の学生たちが踊っていました。この身体の奥に響くリズムは彼らが踊るために大切な「ビート」です。

現在、「Soul Impression」のメンバーは22名。テレビや新聞などのメディアに取り上げられることも多く、彼らの存在は知っていましたが、実際にダンスを見るのは初めてでした。彼らのダンスのジャンルはストリートダンス。リズムに乗って踊る彼らを見ていると、何よりも踊ることが楽しく、ダンスが大好きなことが伝わってきます。そんな彼らといつか一緒に舞台ができればと思いました。

健聴者との合同ダンス公演

彼らがビッグ・アイの舞台で踊る、その機会が訪れたのが、昨年の筑波技術大学と近畿大学文芸学部との合同ダンス公演「HALO ～踊りだす色～」でした。「Soul Impression」がビッグ・アイで公演するタイミングが来たのです。

聴覚障害者と健聴者、ストリートダンスとコンテンポラリーダンス、色んな「違い」はあるけれどダンスを通して交流し、多様な人と表現を認め合える良い機会になると考えました。健聴者である近畿大学の学生がダンスを通じて障害や障害のある人を理解することはもちろんですが、聴覚障害者である筑波技術大学のメンバーに、健聴者と共同して創作するダンス公演を通じて、自身の障害と向き合い、問題を自己解決していくことによって「自信」や「自尊心」が生まれる場になればと考えて企画したのです。

筑波技術大学で学ぶ彼らは、常に情報保障が完備された環境の中で、障害の程度は違っていても同じ聴覚に障害のある人たちと共に生活しています。しかし、彼らがいずれ大学を卒業し社会に出た先は、残念ながら筑波技術大学のように情報保障が整った環境ではないでしょう。多くの健聴者の中で、いわゆる「マイノリティー（少数派）」として生きていくことが待っているのです。この公演で体験したこと学んだことが彼らの将来に少しでも生かされ、解決するための力になってほしいと思っていました。

合同練習のようす

「Soul Impression」のメンバーから合同ダンス公演に出演したのは、村上龍平さん（4回生）、青木嘉輝さん（3回生）、鹿子澤拳さん（3回生）、高橋宗志さん（3回生）、湯浅友美子さん（3回生）、吉木翼さん（2回生）の6人です。公演日までの半年間で合同練習は3回。9月に筑波技術大学で、11月初旬には近畿大学で、そして公演直前の11月20日から本番日の23日までは、ビッグ・アイで合宿による合同練習を行いました。

茨城と大阪という離れた距離のため、合同練習の回数は限られていましたので、メールによる打合せや動画を使った練習などWEBを最大限に利用して各大学が練習し、合同練習日に両大学のコラボ作品をあわせていくという方法で創作を進めていました。

学生たちが考えた公演のテーマは「他者理解」。作品の内容や練習スケジュール、演出プランなどは学生たちが主体となって決め、近畿大学文芸学部の阪本洋三（さかもと ひろみ）教授や筑波技術大学ダンスサークル顧問の西岡知之（にしおか ともゆき）教授、ビッグ・アイの鈴木がアドバイスし、サポートしていくという形で進められました。

どうすれば伝わるのですか

筆談で相談中

聴覚障害やろうの文化、コミュニケーション方法など「自分」を伝えることも大切

この合同公演のキーワードとなったメッセージ「どうすれば伝わるのですか?」。この言葉どおり合同公演の制作では、健聴者と聴覚障害者のコミュニケーションをどのように進めていくかということがひとつの課題でした。合同練習以外の日はメールでのやり取りが主となっていましたので特にコミュニケーションに関しての問題はなかったのですが、いざ合同練習となると手話のできない健聴者とのコミュニケーションは、障害の程度の軽い鹿子澤くんや村上くんが読唇して他のメンバーに通訳をしました。双方の大学での合同練習では、学生たちの主体性を大事にしたかったこと、コミュニケーション方法について考えて欲しかったこともあって、ビッグ・アイから手話通訳を提案することはしませんでした。

公演まであと2週間となった近畿大学での2度目の合同練習日。両大学ともに時間がないことへの焦りと、コラボ作品のひとつに「ビート」がないことで、思うように踊れないという問題が発生しました。

それは「言語」の違いとダンスに必要な「音」の捉え方の違いです。

鹿子澤くんは「ビート」のない作品の練習に加えて、他のメンバーへの手話通訳。この日の彼の表情には疲れが浮かんでいました。読唇をして手話通訳をすることは、かなりの集中力と頭を働かせなければなりません。

そんなことを感じていた時、「ビート」のない楽曲で苦戦している吉木くんへの説明が「きこえない」ことに配慮されていなかったことに気付いた鹿子澤くんから、「近畿大学の皆に話したいことがある」と相談を受けたのです。

近畿大学側に練習終了後に彼らが話せる時間をもらえるよう調整し、その前に筑波技術大学のメンバーはミーティングをすることになりました。そこでは、吉木くんの他のメンバーにも「きこえないこと」に対しての問題がありました。自分たちが練習の中で「困っていることは何か」「どうすれば一緒に踊れるのか」、そしてどうすれば自分たちが抱えている問題を近畿大学のメンバーに伝えることができるのかを話し合ったのです。

この問題を解決するためには、まず自分たちの障害を理解してもらうことが必要だと考えました。「聴覚障害」や「ろうの文化」について伝えることとなったのです。

6人のメンバーがそれぞれに、これまでの辛い経験や「きこえないこと」の不便さを語る中で、鹿子澤くんが話した「筑波技大の教育の中で自分自身のアイディンティーを見つけたこと、手話やろう文化を誇りに思う」というメッセージに心が動かされました。

このことをきっかけに近畿大学側に、共にダンスを踊る彼らが「困っていること」

「必要としていること」への気づきが生まれたのです。

辛かった過去や「きこえないこと」と改めて向き合うことは、本当に大変で苦しかったかもしれませんが、彼らはこの企画の目的でもあった「障害と向き合うこと」「受容し問題を自己解決していくこと」を実践したのです。

どの時期まで学生たちだけに任せてみるのが良いかということに悩んでいましたが、彼らのメッセージに応えるためにビッグ・アイが動き出した瞬間でもありました。

イヤーモニターを試してみる

もっと相手を知りたいから生まれるコミュニケーション

音響スタッフと「きこえ方」と「ビート」の相談

食事会も大切なコミュニケーションの場

ビッグ・アイでの公演では彼らに最高の「ビート」を用意する。そのためには、「きこえ」や「ビート」、補聴器の性能、もっと彼らのことを知りたい、彼らとのコミュニケーションがこの日を境に深まっていきました。彼らとコミュニケーションが増えれば増えるほど、深まれば深まるほどに、たくさんの新しい「気づき」を受け取ることができました。たくさんの「気づき」は「最高のビート」に形を変えて彼らに返すことができました。なぜなら、公演の3日前、ビッグ・アイに到着した彼らが真っ先に駆け寄ったのは「ビート」が生まれる舞台袖の大きなスピーカーだったからです。

ビートを感じる!!

最後に

相手に伝わらないのは、コミュニケーション手段の違いだけなのでしょうか。

相手に伝えたいこと、相手が伝えたいことを阻んでいるものが何かを考えることや問題から目を背けず相手としっかり向き合い、思いを馳せることで気づけることはたくさんあるのではないでしょうか。

この号が出る頃には4回生の村上龍平くんは卒業し社会へ旅立っています。

りゅーぺ！ 卒業おめでとう!!

メンバーに聞いてみました。

①公演を終えて思うことは？ ②あなたにとって他者理解とは？

高橋 宗志
（たかはし そうし）

①個性とはなんなのか追求するようになり、その答えにはまだたどりついていないけど探し続けるようになった。
②自分以外の人とつながることかな。・・・・

鹿子澤 拳
（かのこざわ けん）

①自分自身をしっかりと見つめるようになった。健聴者とのやりとりで、わからないことをなんとなくやり過ごすことがあったけど、でもこの公演では失敗はできないし、すれ違いが生じてしまっては迷惑をかけてしまうので、聞こえないこととかあったりしたら恥じずに聞き返すような行動を久しぶりに起こしたような気がする。
②面倒くさがらずに一人一人の特性、特徴、個性をゆっくりと見つめる必要があると思います。この人とはこう接すればよいだろう…と考えていくことが他者理解につながっていくのではないかな。

青木嘉輝
（あおき よしき）

①健常者と距離をとっていた自分があったけど、今回の公演を通して健常者に対する考えと気持ちが変わって、心をオープンにすることができたことが一番大きな収穫。
自分が望んでいなくても、周りの環境や配慮によっては想像以上の結果が得られるのではないかと思う。
②障害のあるなしに関わらず、この世界人類すべてのテーマだと思う。
自分にとっての他者理解とは障害に対する理解です。
ろう者も、それ以外の障害のある人も障害の程度は様々です。障害を一括りにしてしまうことが原因のトラブルもあります。そのときはお互いがゆっくりじっくりと意思を疎通できる時間を作ることが一番だと。

村上龍平
（むらかみ りゅうへい）

①コミュニケーションにおける壁をどう超えるかを考える機会になったと思う。
②相手のことを知ろうとする気持ちや積極性と人間観察力も必要だと思う。会話している時だけが他者理解じゃないと。相手の言動、行動から読み取れることもたくさんあるから。

湯浅友美子
（ゆあさ ゆみこ）

①ダンスを通してチームとのコミュニケーションや社会性が広がったことかなー。
②相手にしっかり自分の存在や意思を伝えることが大切だと思っています。障害に関係なく1人1人違う人間なのでその人を受け入れられることが他者理解に繋がるかなと思う。

吉木翼
（よしぎ つばさ）

Thank you!
Soul Impression

Exhibition

ビッグ・アイ アートプロジェクト 入選作品展 共振×響心

日々のカケラ

5周年を迎えた2015年度の「作品募集」には、国内外から1,514点もの作品が届きました。
この展覧会では、美術界で活躍する6名の審査員によって選出された50作品をご紹介します。

東京　Bunkamura Box Gallery
会期　2016年5月2日(月)～5月9日(月)　入場無料
10:00～19:30〈最終日は17:00まで〉
※5/3は、ワークショップ開催のため、13:30～17:00の間、CLOSEとなります。

横浜　障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール
会期　2016年5月11日(水)～5月15日(日)　入場無料
10:00～18:00〈5/11は16:00～18:00予定、最終日は15:00まで〉

主催：国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)
共催：社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団(横浜会場)
協力：株式会社東急文化村(東京会場)

Event

東京会場　Bunkamura Box Gallery

「視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ」

日時　2016年5月3日(火・祝)　14:00～16:30
講師　視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ
参加無料　要申込(先着順)　定員10名程度

ワークショップへの参加には事前の申込が必要となります。
詳しくはビッグ・アイ ホームページをご覧いただくか、
下記までお問合せください。

かがみに写った男と三人の女性／三浦明菜

問合せ　ビッグ・アイ「アートプロジェクト」係　TEL 072-290-0962　FAX 072-290-0972　Eメール museum@big-i.jp　ホームページ　http://big-i.jp/　ビッグ・アイ　検索

Program

BiG-i de 職場体験 その後

以前にもご紹介しましたようにビッグ・アイでは、宿泊・飲食サービス業における障がい者の職域拡大をめざして、レストラン『ぐらん・じゅ』を中心に、職場体験プログラムを実施しています。平成26年7月のスタート以来、大学や高校、支援学校、福祉事業所、就労支援機関などを通じて169名の方が実習を体験しました。

来年度については、これまでより現場色を強め、さらなるパワーアップを計画しており、やがてソーシャル・ファーム※として自立化することをめざして運用する予定です。

※ソーシャル・ファームとは、障害者あるいは労働市場で不利な立場にある人々のために、仕事を生み出し、また支援付き雇用の機会を提供することに焦点をおいたビジネスモデルのこと。

働くって楽しい！

誰もが食事を楽しめる
レストラン ぐらん・じゅ
7:00～21:00(ラストオーダー 20:30)
席数 50席(全席禁煙)

ご予約・お問合せ
国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)1階
TEL&FAX 072-290-0917
大阪府堺市南区茶山台1-8-1

レストラン『ぐらん・じゅ』

新メニュー「料理長厳選の日本酒と焼酎」

国内外で開催されたコンテストで受賞した銘柄や、他にはないこだわりで味を追求したラインナップです。お得な「選べる」おつまみセットもご用意しております。

おつまみセットのおつまみ例

美味しい「優食セット」

レストランぐらん・じゅでは、通常の食事をとるのが難しい方や、かむ力が弱い方のために摂食支援食として「優食セット」をご用意しております。スプーンでもつぶれる柔らかいお食事です。

ハンバーグセット	1,500円
牛肉の赤ワイン煮セット	1,600円
ホタテ貝のガーリック焼きセット	1,600円

「優食セット」は、吹よせ野菜、本日のスープ、ライス又はおかゆが付きます。

優食ハンバーグ

※優食メニューは「あい～と」のメニューを使用しています。

Present!

プレゼントクイズ

今号の特集記事からの出題です

ビッグ・アイ アートプロジェクト入選作品集
「BiG-i Art Collection 2015」を 10 名様にプレゼント!!

Q Soul Impressionのメンバーが踊るために大切なものは何でしょう?

○○○　ヒント：カタカナ 3 文字

10名様

■応募方法
クイズの答えと下記の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファックス、Eメールのいずれかでご応募ください。
①氏名(ふりがな) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤本紙へのご感想やご希望、ご質問など
正解者の中から抽選で10名様に景品を発送させていただきます。当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。
※読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

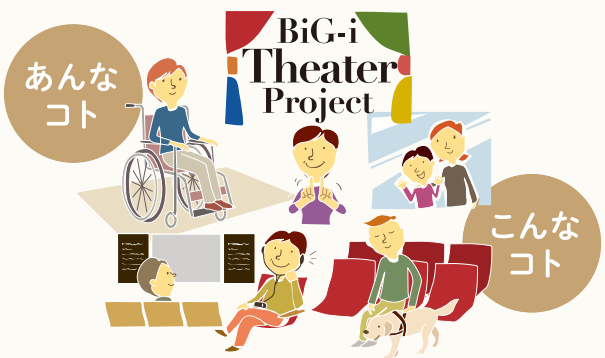
■応募締切
2016年4月30日(土)消印有効

■応募先
〒590-0115
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
ビッグ・アイ「i-coプレゼント」係
FAX 072-290-0972
Eメール i-co@big-i.jp

ご応募の際にお預かりする個人情報については、個人情報保護関係法令を遵守し、本紙の運営・実施の目的以外には使用いたしません。

鑑賞サポート相談窓口

手話通訳や要約筆記、音声ガイドなど、さまざまな鑑賞サポートに取り組むビッグ・アイ。
鑑賞サポート相談窓口では、誰もが楽しめる舞台づくりや鑑賞サポートに対するご質問、ご意見を受付けております。企画や運営方法など、さまざまなご質問にお答えします。



ご質問・ご相談は　ビッグ・アイ「鑑賞サポート」係
Eメール theater@big-i.jp

ビッグ・アイ BiG-i 国際障害者交流センター International Communication Center for Persons with Disabilities

編集・発行　国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)広報
〒590-0115　大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962　FAX 072-290-0972
発行日　2016年3月25日

アートやイベントなどの情報満載！スタッフがビッグ・アイの日々を綴ります。
Facebookページもご覧ください！
https://www.facebook.com/bigiartproject